

6月14日 議事録

記録者：鯨井留実

新しい決定事項

○合宿日程候補：8月7～9日

議論

発表者：豊島・小川・池戸

タイトル：「建築 世界旅行」

○私たち社会や、人は建築に影響されることはあるのか？

班の見解：人々を動かす力は建築にはない。確かに国家を代表する建築があったとしても、結局は建築によって人々を動かすことは難しい。

↓

人々を動かすとは、「心」を動かすこと

→「心」を動かすには、映画や言葉などわかりやすい方が伝わりやすい。

- ・しかし、建築だけでは長い間ある分、人々はその建築の存在に慣れてしまい、継続的な影響力はない。あったとしても、それはたった一瞬の影響。
- ・ 建築が建つということには必ず思惑があるはず。
- ・ 心を少しでも突き動かしただけでも、それは建築の力と言える。

→（感動やキレイと思う気持ちなど）

▽でも、それだけでは力があると言えないのでは？

建築の力を感じられたことは、例えば…

ドイツ：愛国心をまとめ上げるために建築した。

ソビエト：世界ではじめての共産主義国家を作った。

その気持ちや地位を世界に示すためにも建築はあった。

フセインの銅像を倒す→この「壊す」という行為に新しい時代はある。

「昔は城をつぶす＝王位の交代」

→壊されたときに建築の意味はあるのでは？イデオロギー的。

- ・美術館もモニュメントとして作られたとしても、人が入らなかつたら壊されてしまう。何らかの意味のある建築が壊されると、感じるものがある。
- とすれば、建築には何かがある。

▽人々の心を動かすという意味は何なのだろう？

- ・六本木ヒルズが壊されても私たちは困らないけど、例えば日本の象徴でもある東京タワー

一が壊されたら…東京タワーは戦後、日本の成長を願って建てられたものであるから。

・丹下健三が戦後に東京～富士山までの巨大な道路を作ろうとする案があった。案で終わってしまったが…

・1930年代はひとつになって、一つのこのために目指せる時代だった。

→「全体主義的」な発想

・今の私たちはわからない発想かもしれない…

⇒先導のために建築を作るということはあるのだろう。

▽しかしそれは動かされるポイントになるのか？

・建築物は結局はシンボルであり、影響力はやはりないのでは？

・イデオロギーは生まれなくても、愛国心は育てられるのでは？

・建てられた時はわからなくても、人々が使ったり、人々に認められて、初めて建築物はシンボルとして形成される。

→「人々が認める＝シンボル」ということが起こる

・建築物自体に意味があるのではない。働きかけによって意味が生まれる。

▽建築物の高さを国同士で競っているように思える。

建築物の高さ＝資本・国の力の象徴

・競う気持ちはあると思う。

・台湾は上海に負けないと、高いビルを建てた。

・人々はやはり大きい、高いという建物に国の力や資本、何らかの力を感じているようだ。

・長い歴史を持っていることも大切。

▽では、なぜその「力」に人はひかれるのか？

・個人主義ならそんな気持ちは抱かないのでは？

・「全体主義」のようで、「個人主義」な私たち。

→いつもいいとこ取りをし、取替え可能なもの。しかし、取り替えられない物もある。

▽ 伝統の引継ぎとは物品？精神？

・本当は精神まで引き継いでこそ「伝統の引継ぎ」。しかし、そこまで行けないという悲しい現実がある今、1. 物品→2. 精神という現状があるのでは…

記録者・感想

今回も話は色々に飛んでしまいましたが、意見を発表することに抵抗もなくなり、各自の気持ちや意見というものを言葉にすることがとても普通に感じられるいい議論だったと思いました。

議論を盛り上げるというのは難しいもので、いつも議題は悩み、発表者は「これなら」と思って、話初めていると思います。しかし、思うようになかなか進まないもの…
今後は誰かも言っていましたが、2択ではない投げかけをしたり、先生もおっしゃっていましたが、過去の現状をいかに今の私たち、社会を照らし合わせた形で考え、自分たちの個人研究の足しにしていけるような議論ができることを目指せるかが、大切であると思いました。今回で前期最後のグループ発表となりましたが、各自が今までの発表や議論からよかった点や反省点、改善点を探し、見つめなおし、後期につなげて行けたらと思いました。でも、毎回それぞれの意見が様々な形で出てくる議論、後期も楽しみです。

鯨井留実